

更新審査が無事終了しました！

10月13日(火)から15日(木)に伊那キャンパスにて、(株)日本環境認証機構の中嶋康夫審査リーダーと水落清審査員の2名により、3回目の更新審査が実施されました。結果、改善の余地について指摘はありましたが、不適合はなく、認証の更新を推薦いただくことになりました。ここにご報告申し上げますとともに、みなさまのご尽力に対しまして、心より感謝を申し上げます。

今後とも環境 ISO 活動に対する一層のご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。
環境管理責任者 鈴木 純

1. サイトトップオープニングミーティングのご挨拶

平成27年更新審査に当たって

信州大学農学部長の中村でございます。中嶋先生、水落先生、本日から3日間にわたっての長丁場となりますが、どうぞ宜しくお願い致します。

さて、早速ですが、信州大学は、文部科学省の国立大学改革に向けた新方針「三つの枠組み」において、重点支援①型(地域に貢献する取組とともに、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界・全国的な教育研究を推進する取組を中核とする国立大学を支援)を選択しました。今後は重点支援①型を選択した55大学の中で熾烈な競争が展開されるものと推測されます。このことが意味するところは、学術研究においては、挑戦性、総合性、融合性、国際性を意識しながらも、本学の強み・特色のある分野での研究を進化/深化させ、他にはない、一味もふた味も違った卓越した知の創出を引き出すことが求められているということです。そして、その一方では、私どもには、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を例に引くまでもないことですが、地域貢献において、地域社会経済の活性化や地域医療に貢献するための教育研究環境の充実、地方公共団体等との連携、地域産業を担う高度な地域人材の育成が求められているということになります。今後も、学部長として、引き続き皆様のご協力をいただきながら、私たちの教育研究活動が、少しでも高い評価が得られるよう最善の努力を尽くしていきたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

私たち人類は20世紀の後半に科学技術を飛躍的に発展させ、人口の爆発的な増加と旺盛な人間活動を促し、地球に多大な負荷を与えました。そして、私たちは今、人口問題や地球温暖化問題に加えて震災からの復興という難題に直面しています。人々が健康を維持し、安全で文化的な生活を保つためには、安全な食料の安定供給と豊かな自然環境を維持することが必要であると考えられます。私たちは、これまで以上に、今後の食料生産や資源の確保、食の安全や機能的食品及び環境の保全などに強い関心を持ち、環境調和・資源循環型社会を構築する必要があります。これらの課題を多面的に扱い、解決策を探求する「社会技術」的学問分野が農学です。私たちはこれまで、食料、生命、環境に関する複合的な諸課題を取り上げ、目的志向型の研究開発を通して基礎研究の未開拓部分をも明らかにしてきました。

そのような中で、文部科学省は、平成24年6月に「大学改革実行プラン」を打ち出し、社会貢献や研究面で社会からの要請にきちんと応えることができるようになるよう大学に要望しました。また中央教育審議会は「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」という答申の中で、私たちに質的に変わることを強く求めました。社会の変革のエンジンとなれということです。こうして私たちは、大学の社会的責任、University Social Responsibilityを果たすため、足かけ3年間にわたって日々真摯な議論を重ねてまいりました。そして漸く、本年度から、現行の食料生産科学科、森林科学科及び応用生

命科学科からなる3学科体制を改め、農学生命科学科一つへと改組いたしました。本年度からの入学生にとっては農学を取り巻く多様な学問分野をピンポイントに深く修学したというより、総合科学としての農学をきちんと学んだという自信がつくのではないかと考えています。「農学とは何か」という基本理念をしっかりと学び、農場実習などを通じて学生の主体的学習能力(アクティブラーニングの姿勢)を養い、信州大学の教育理念の一つである環境マインドを根付かせるための仕組みも導入いたしました。今後の信州大学農学部の新たな展開にどうぞご期待ください。

さて、私かねてより申し上げていることですが、ある意味、農学の教育研究そのものが“EMS”活動であるともいえます。信州大学農学部は、自然豊かな環境のもとで地球的な広い視野と現実的な視点に立って、農学に関する広い知識と技術を涵養し、その成果を広く世界に向けて発信するとともに、地域社会とも連携して地域の発展に寄与していく努力を続けてまいります。本学部の責任、社会的使命はますます重くなってくるものと思われまます。その責任を果たし、社会の期待に応えることのできる環境マインドを持った高度専門職業人の養成に邁進していきたいと思っております。

少し長くなりましたが、第3回目の更新審査に当たってのご挨拶とさせていただきます。ご静聴ありがとうございました。どうぞよろしく申し上げます。

2. サイトトップクロージングミーティングのご挨拶

クロージングに当たって

中嶋先生、水落先生におかれましては、一昨日から3日間にわたりまして大変精力的で濃密なサーベランス、誠にありがとうございました。まずは先生方の示唆に富み、かつ教育的な審査に対しまして厚く御礼を申し上げます。

さて、今回の3度目の更新審査に当たりましては、3点の「改善の余地あり」とのご指摘をいただきました。謹んで受け賜りたいと思います。それとは別に沢山の“良い点”をあげていただきありがとうございました。今後の励みとしていきたいと思ひます。中嶋先生からのご報告を拝聴しながら、環境ISOの運用に当たっては、平素よりの日常的な活動が重要であり、何はさておき、自らの行動を客観的かつ冷静に振り返ることのできる素直な気持ちと心のゆとり、次世代や地球環境全体にまで思いを馳せることのできる想像力や感性こそが何にもまして大切であるということをご今更のように強く感じた次第でございます。

環境教育は、本学の教育理念の柱に据えられています。環境ISO14001を取得していることによって、本学の教育研究がより一層向上していくことを大いに期待しないわけにはいきません。本学部が Organization with sustainability as usual, 継続し日常的に環境パフォーマンスを考える組織、であることの認識が更に高まるよう、今後も微力ではございますが、努力を重ねて行く所存でございます。今後も何かにつけ、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、環境管理責任者の鈴木純先生、副責任者の中村浩蔵先生、内部監査委員長の松島先生、事務局の酒井補佐、実行ユニット長の先生方、部会長の皆様方をはじめ本キャンパスの全ての構成員の皆様方に深く御礼を申し上げます。

ありがとうございました。

ISOニュースに関するご意見・ご質問・投稿記事などがございましたら

ISO事務局：agri-eco@shinshu-u.ac.jpへご連絡ください